

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	インターンシップ 2	
科目基礎情報							
科目番号	0054			科目区分	MC / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	: 6		
開設学科	構造設計工学専攻 (平成30年度以前入学生)			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	6		
教科書/教材	派遣先実習指導者の指示による						
担当教員	奥本 良博						
到達目標							
1. 実習機関 (企業、研究所、大学等) の状況を把握し、与えられた課題を解決できる。 2. 実習体験を通して実践的・技術的感覚を養うとともに、専攻科での研究目的を明確化できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル			標準的な到達レベル		未到達レベル	
到達目標1	与えられた課題を解決した上で、関連する課題を見つけ出し取り組むことができる。			与えられた課題に適切に対応して、解決できる。		与えられた課題に適切に対応せず、解決できない。	
到達目標2	実践的・技術的感覚を身に付け、専攻科での研究活動と関連づけて応用できる。			実践的・技術的感覚を身に付け、専攻科での研究活動との関係を説明できる。		実践的・技術的感覚を身に付け、専攻科での研究活動との関係を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	国内外の企業、研究所、大学等において機械工学および建設システム工学に関連する専門的実習を行い、実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的能力を養う。						
授業の進め方・方法							
注意点	(1) 学生は総実習機関に応じて、インターンシップ 1 から 4 のうち必ずいずれかを選択すること。(2) 企業、研究所等で実習を行うので、特別研究指導教員及び派遣先実習指導者の指示に従うこと。原則として、専攻科第 1 年次の 8 月中旬～ 1 1 月末に実施する。(3) 複数個所で実習を行った場合は、各実習先ごとに発表、レポートを作成する。(4) インターンシップ期間にインターンシップ以外で余った時間は特別研究に専念すること。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス、事前打ち合わせ	ガイダンス・事前打ち合わせを通じて、 (1) 事前に、目的を理解し、心構え、社会のルール等を身に付けている。 (2) 派遣先の概要と実習内容等について理解できている。			
		2週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		3週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		4週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		5週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		6週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		7週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			
		8週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 (1) 派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 (2) 実習期間中、成果を 2 週間に 1 回程度で報告書としてまとめることができる。			

[illegible]

		7週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		8週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
	4thQ	9週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		10週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		11週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		12週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		13週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		14週	実習先機関における実習	国内外の企業、研究所、大学等における実習を通じて、 （１）派遣先の実習指導者のもとで、課題に対して適切に対応できる。 （２）実習期間中、成果を２週間に１回程度で報告書としてまとめることができる。
		15週	インターンシップ報告会	インターンシップ報告会の発表により、課題の概要とそれに対する解決方法およびインターンシップの総括が行える。
		16週	インターンシップ報告会	インターンシップ報告会の発表により、課題の概要とそれに対する解決方法およびインターンシップの総括が行える。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	60	0	0	20	20	100	
基礎的能力	0	10	0	0	5	5	20	
専門的能力	0	30	0	0	10	10	50	
分野横断的能力	0	20	0	0	5	5	30	